

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1090500230		
法人名	特定非営利活動法人コスモス		
事業所名	グループホーム コスモス ハーモニー		
所在地	群馬県太田市西野谷町95-1		
自己評価作成日	平成27年2月6日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人群馬社会福祉評価機構		
所在地	群馬県前橋市新前橋町13-12		
訪問調査日	平成27年2月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

建物の外観やホール、庭園はヨーロッパを思わせる雰囲気にとらわれており、天井は開放感と採光がとれるよう高くなっている。庭へはバリアフリーで自由に行き来でき、四季折々の花が咲き、スタッフと一緒に水やりや野菜、果物の収穫等、共同作業を楽しむことにより、季節感を味わうことが出来る。また、調理や洗濯など出来ることは可能な限り参加していただき、能力を発揮していけるよう努めている。天気の良い日は、近所へ散歩へ出かけたり、保育園の運動会を見に行ったり、中庭へ出て体操をしたり気持ちをリフレッシュしてもらえるようにしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

施設長自ら町内清掃や新年会に参加することで、徐々に近隣との関係を築いてきた。このような日頃の交流から、利用者と散歩中の会話が増えたり、雪害時の支援を受けるたりなど、関係は深まっている。また、地域の保育園児の訪問もあり、手縫いの雑巾をプレゼントする異世代交流の試みは、今後家族や地域住民にも参加してもらえるよう検討している。利用者支援では、利用者の転倒予防と筋力維持を目指し、リハビリ職の助言や指導を受けて、介護職による個別リハビリを採り入れている。また、職員は幅広く人柄を重視して採用し、職員の意見を採り入れ働きやすい環境づくりに努めている。今後は、利用者が行きたい場所ややりたい事といった個別支援を増やし、満足感が得られる日常生活の提供を行いたいと考え、取り組む予定である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員とともに理念を作り、毎日、唱和し、理念に基づいて支援できるよう、目標をたてて日々のケアに努めている。	毎朝、職員一人ひとりが理念の内容に沿ってその日に実践してみたい事を申し送りで発表し、目標を意識して支援している。夕方の申し送りでは、実行と達成状況を報告し、改善点を確認している。時に職員本位のケアがみられる場合は、施設長及び管理者が指導している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事、清掃や新年会、土曜念仏、夏祭りなどに参加している。また、小学校の学習の場として受け入れを行い、地域の一員として交流している。	設立5年目にさしかかり、施設長は町内清掃や新年会に参加することで徐々に関係を築き、利用者と散歩中の会話が増えたり、雪害時の支援を受けたりなど関係が深まっている。また、地域の保育園児の訪問もあり、手縫いの雑巾をプレゼントするなど、異世代交流の試みは今後家族や地域住民にも参加してもらえるよう検討している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎年、近隣の小学生が、総合学習で来訪している。その際、ケアマネージャーから、生徒や先生に認知症についての症状や支援に気を付けていることなどを説明し、その後、実際に交流の場を設けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二か月に一度併設のグループホームや小規模多機能居宅介護施設と開催している。地域行事の情報や市からの連絡事項などを話し合い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	会議では近況等の報告の他、同時開催で避難訓練やAED演習を行い、事業所の取り組みを理解してもらう工夫している。このような参加型の会議を通じて意見も出され、地震災害時の対応マニュアルを作成したり、レクリエーション内容の見直しを行ったりしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	日ごろから運営などに関して、わからないことは密に連絡を取り相談している。	書類提出の際には、努めて担当者との顔合わせして事業所の取り組みを伝えている。積雪の際には除雪や溶雪の相談を行い、事業所だけでなく地域防災の連携協力がなされるよう努めた。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は基本的には行わない方針のため、勉強会を行い、職員の共通理解を図っている。また、シンポジウムにも交代で参加し、正しく理解できるよう努めている。	身体拘束の外部研修に参加し、事業所内の勉強会を通じて職員間で考え方を共有している。事業所では、利用者本人が苦痛に感じているか否かが身体拘束の基準となり得るのではとの考えもあり、利用者が負担にならない範囲でお昼休みや入浴時間の職員の目が届かない時間帯に、防犯の意味も含めて玄関を施錠している。	玄関の施錠が習慣的に行われてはいないかや、事業所の理念に照らして施錠の理由や拘束のあり方について話し合う機会を持ち、拘束しないケアを検討される事を期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待については、勉強会を通し、職員一同で防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度について、勉強会で学習し、職員が理解できるよう繰り返し勉強している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際、丁寧に説明するとともに、疑問やどのような支援を希望しているかなどについても話し合い、理解と納得を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会時や運営推進会議では、近況を報告し、その際、直接気軽に意見を聞かせていただいている。困っていることや、ケアに対しての希望などについて教えていただき、支援につなげている。	日頃から細かな要望にも即座に対応することで、どのような事でも言いやすい関係性を築くよう努力している。運営推進会議の席や面会時にお茶を出してゆっくり話をしながら、「職員の名前がわからない」「玄関にカレンダーを」「請求書の文字が小さい」「自分で薬の管理がしたい」等の意見を採り入れている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員は日ごろ気づいたことを、朝の申し送り時などに意見を出している。また、年2回職員の個人面談を行い、意見や提案を聞く機会を設けている。	職員は、日頃から意見・要望や困りごとを管理者に伝えることができ、職員意見からレベルアップの為の研修参加の増員がなされた。また、年に2回の個人面談が行われている。さまざまな意見は管理者を通して代表者や施設長に挙げられ、再度職員へ回答がでる流れができています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者や職員個々の勤務実績状況を把握し、努力を認め給与水準などに反映している。また、状況に合わせ、個々の働きやすい職場環境の整備にも努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人外の研修にも参加できるよう、努めている。また、その研修がケアにつながるよう、勉強会で発表し職員全体が共有できるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	連絡協議会に参加し、交流する機会を作り、サービス向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用前に、施設を見学していただいたり、本人にお会いし不安や要望を聞きとり、安心してサービスを導入できるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	導入前に、家族の要望や困っていることをよく聞き取りし、サービスの提供に役立っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホームでのサービスが適切か、ほかのサービスが適切かを見極め、随時十分に検討します。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人を介護される一方的な立場におかず、出来ることは一緒に行い、人生の先輩として、色々なことを教えていただきながらゆったりと寄り添い支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の面会時には、日々の様子をお伝えし、情報を共有し一緒にケアについて考え、話し合っ支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や友人と、お墓参りなどへ出かけたり、親戚の新年会に出かけたりしている。	日頃散歩をしながら「行ってみたいところはある？」などと話しかけて、大切に思っている人や場所について語ってもらう機会を作っている。多くは家族と行きたい場所等へ出かけることが中心だが、教会を心のよりどころとしている利用者には、牧師の面会と教会への送迎を予定しており、個別の対応で利用者の満足感が得られる支援を考えている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し、楽しい日々が過ごせるよう、席順などにも配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じ、いつでも相談にのれるよう、努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の暮らしの中から、本人の意向を把握し、職員全員で意向に沿える支援を心がけている。思いや希望を伝えることが困難な方に対しては、生活歴や家族からのお話、本人の表情から、本人本位の介護が出来るよう努めている。	常に利用者に目を配り、声かけを多く持つよう努めている。利用者の気分に合わせてゆっくりと対応して話を聞き、会話の裏にある意向の把握に努めている。困難な方には、生活歴をベースにして思いを理解できるよう関係者を含めて話し合い、日常のケアに繋げている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時のアセスメントで今までの生活歴やサービス利用の経過を把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人一人の心身状態・有する能力の現状を把握し、職員全員で共有し、その人にあった支援ができるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎日のコミュニケーションの中からニーズを把握するとともに、本人や家族にも希望を確認している。ケアプランは職員会議の時に職員間でも話し合いを行いながら作成している。	計画立案には、利用者に対する職員の意見を紙面で集めて、介護計画に反映させている。モニタリングは、3ヶ月に一度職員が行っている。介護記録には計画内容の番号をふって、計画を意識した記述になるよう努めている。また毎朝実施する計画を発表し、夕方実践した内容を話し合う、計画の評価に繋がる取り組みがなされている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践などは記録に残し、毎日の申し送り時に意見を出してもらい、実践につなげている。また、介護計画の見直しにも生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族のニーズをうかがい、可能な限り柔軟に対応できるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの方や、地域の学童クラブ、保育園、小学校の総合学習などを通じ、地域の人たちとの交流を通じ、豊かな暮らしを楽しんでいる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は、本人と家族の希望を聞き、受診できている。受診結果については本人、職員、家族がお便りや電話等で情報を共有できるよう努めている。	それまでのかかりつけ医を受診することも、事業所の協力医を受診することも可能である。協力医は週に1回往診し、状態に変化がある時には、家族の同席をすすめている。他科受診は、家族同伴で職員が同行している。医療面・健康面の情報を毎月家族に送付して、適切な受診ができるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に一回、訪問看護を行っている。その際、しっかりとコミュニケーションをはかり、相談できる環境にある。利用者のケアの方法についても丁寧に指導してもらえる為、職員も安心して介護に関わることが出来る。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院との連携を図りつつ、利用者と家族の希望を大切に早期に退院できるよう支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期のあり方については、契約時に記入してもらっている。事業所でできることも入所時に説明し、重度化し終末期が近づいた段階で、主治医からの説明をしてもらい、意向を再度、確認している。	事業所は終末期の方針を作成し、文書としているが、状態変化にともない家族とその都度話し合い、いつでも方針を変えることができる旨を伝えている。重度化に伴い、医師から予後予測をその都度家族に説明している。看取りを経験し、看取りに関する勉強会を実施している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応や事故発生時の応急手当等について、勉強会で確認し、AEDについても勉強している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回は防災訓練を実施している。そのうち、1回は夜間想定で行っていて、運営推進会議を通じて近隣の住民にも災害時の協力を依頼している。	年に2回の避難訓練では、運営推進会議と同時開催することもあり、参加者と災害意識を共有している。庭に避難した利用者の見守りを、地域住民に依頼することができている。火災・地震・積雪の対応マニュアルを作成し、水や食料などの備蓄品がある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し、声かけや言葉使い、声の大きさに注意を払っている。	排泄介助時や利用者との距離が近くなり適切な言葉づかいになっていない場合は、配慮を常に忘れないように、と管理者から職員に話している。申し送り時では利用者の名前を声に出さずに記録を指し示して報告し、ホールにいる方に聞こえないよう注意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の希望に合わせてケアすることを心掛けている。日常の会話の中で、本人の望んでいることをくみとり、家族や職員間で相談しながら実現できるよう努力している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切にし、希望を聞きながら外出したりと希望にそった支援を心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみについては、理容師が来所しヘアカットを行ったり、なじみの美容室へ行き、パーマなどを楽しんでいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が楽しみになるよう、料理の本をみながらみながら、献立を選んだり、一緒に準備や食事も行っている。	利用者の要望を聞き、職員と話し合い献立を作っている。下ごしらえや調理・味見など、できる限り参加してもらっている。おやつには、パンケーキを焼いたり、水ようかんを作ったりしている。経口摂取が困難になりつつある利用者でも、ペースト状で提供したり、注水器を使用したりして、栄養面の補強で褥瘡予防に取り組んでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	健康状態に応じ、主治医や家族、本人とも相談しながら食事量・形態を決めている。また、水分量は必要に応じチェックしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人一人に合った口腔ケアが出来るよう、歯科医からの指導の下、支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄のパターンを個々に把握し、定期的に声かけを行い、できるだけトイレで排泄できるよう努めている。	排泄パターンを把握した上で、失禁する場合はトイレに誘導したり、動作を修正したりして、どのような理由なのかを分析し、その方の能力を見極めて最適な介助が提供できるよう努めている。座位が保てない利用者を除き、利用者はトイレ排泄ができるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便を促すため、水分をしっかりと摂っていただいたり、体操を日課としている。必要に応じて、主治医と相談しながらケアに努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は個浴で行い、入浴中は職員とゆっくりお喋りをしながら入り、また入浴剤や季節湯で香りを楽しんでいただいている。	週に3回、個浴で入浴でき、拒否のある方にはその原因を追究し、機械浴槽を使用してみたり、対応する職員を変えたりしている。寒さ対策として、脱衣室及び浴室にガス暖房器を設置して、快適に入浴ができるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間やお昼寝の時間は一人ひとりの希望や体調に合わせて決めている。夜間、気持ちよく休んでいただけるよう、日中は適度に運動やレクリエーションなどを行い、活動量を高めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は一人ひとりが内服薬について理解し、薬の内容が現状とあっているのか、その都度、主治医と相談しながら、過剰な服薬がないよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	張りや喜びのある日々が過ごせるよう、家族や本人から生活歴や楽しみなどを教えていただきながら、編み物や音楽を楽しんでいただいている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は、近所へ散歩に出かけ、地域の方々と交流を深めている。また、季節によって桜や藤などの花見へ出かけている。家族と外出し、温泉や外食を楽しんでいる。	日常的に、ほぼ毎日散歩に出かけている。また、全員で出かける外出も定期的実施している。今後は、利用者の希望や状態に合わせて個別の外出支援を行いたいと検討している。以前通っていた教会に行くことを楽しみにしている利用者には、職員が同行して出かける外出を考えており、個別の満足感が提供できる計画を検討している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在は、お金を管理している方はいないが、希望に応じて本人が管理することも可能。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙や年賀状のやり取りもあり、素敵な絵手紙が届く。また、希望時は家族などへの電話もしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間には、写真や作品が飾られ、窓からは中庭の木々や草花を楽しめる。温度調節や光の調節はこまめに行っている。	施設長は、利用者や家族をはじめ、来訪者にも余裕のある空間やインテリアの工夫から、事業所が考える「利用者を大切にす介護」を感じ理解してもらおうと考えている。居間兼食堂は、採光が多くとれる開放的な作りになっている。暖房器具を備えた脱衣室・浴室など、安心・快適な日常生活になるよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	席の配置を工夫し、それぞれがよい関係を構築できるよう配慮している。また、ホールにはソファもあり気の合った利用者同士が思い思いに楽しく過ごせるよう工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者・家族と職員でその人らしい居室造りを行っている。好みの置物やタンス、写真手作りの作品を飾り居心地良く過ごせるよう支援している。	居室は、部屋別にカーテンと壁紙を変えている。タンス以外は個人の好みの物を持参してもらい、家族写真を飾ったり、仏壇を置いたり、楽に座れる椅子や衣類を掛けるハンガーラックを置いたり、利用者が快適に過ごせる場所となるようにしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内には手すりを設置し、自力歩行が出来るようにしている。また、居室ごとに壁紙やカーテンのがらを変え、自分らしい部屋作りを楽しんでもらい、それぞれの雰囲気の違いの違う居室の為、間違っただけの部屋に入らないように工夫されている。		